

- 問1 江戸時代、幕府や藩が大規模な土木工事を行い、海面の埋め立てや湖沼の干拓を通じて「新田開発」を積極的に進めた最大の目的として、最も適切なものはどれか。（2014年 和歌山県公立入試 類似）

1. 鎖国体制を維持するために、輸用の作物を栽培する土地を確保すること

2. 農民の負担を軽減し、農村における貧富の差をなくすこと

3. 武士を農村に住まわせることで、兵農分離の制度を廃止すること

4. 耕作面積を広げて年貢の増収を図り、幕府や藩の財政を豊かにすること
- 問2 江戸時代初期、徳川家康は海外貿易を統制・奨励するためにある仕組みを整えました。大名や豪商に対して、将軍が海外渡航を許可する「朱印状」という公文書を与え、東南アジア諸国との間で行われた貿易の名称を答えなさい。（2024年 富山県公立入試 類似）

1. 南蛮貿易

2. 朱印船貿易

3. 勘合貿易

4. 日宋貿易
- 問3 19世紀前半に大阪で起きた大塩平八郎の乱について、この出来事が幕府に大きな衝撃を与えた理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 山形県公立入試 類似）

1. 外国船を退ける「異国船打払令」に反対する知識人たちが、横浜の開港を求めて大規模なデモを起こしたから。

2. キリスト教の信仰を認めない幕府の姿勢に対し、九州の農民たちが武装して領主の城を攻撃し、長期間占拠したから。

3. 幕府の元役人であった陽明学者が、飢饉に苦しむ人々を救うために、幕府のおひざ元である大阪で武装蜂起したから。

4. 田沼意次の政治によって経済が混乱したことに憤った大名たちが、将軍の世継ぎ問題を理由に江戸城を包囲したから。
- 問4 19世紀初め、ロシアの南下を警戒した江戸幕府の命令により樺太（サハリン）を調査し、そこが大陸と地続きではない「島」であることを確認した探検家は誰ですか。（2016年 三重県公立入試 類似）

1. 間宮林蔵

2. 近藤重蔵

3. 高野長英

4. 伊能忠敬
- 問5 江戸時代中期の5代将軍徳川綱吉の時代を中心に、京都や大阪といった上方で、経済力を蓄えた町人たちが担い手となって栄えた文化を何といえますか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

1. 天平文化

2. 元禄文化

3. 国風文化

4. 化政文化
- 問6 江戸時代の対外政策において、幕府の統制下で特定の窓口（四つの口）を通じた交流が行われていた状況について説明した文として、適切なものを選んでください。（2023年 千葉県公立入試 類似）

1. 松前藩を窓口として、清（中国）との長崎貿易が管理された。

2. 対馬藩を窓口として、朝鮮との外交や貿易が行われた。

3. 薩摩藩を窓口として、オランダとの貿易が独占的に行われた。

4. 長崎を窓口として、蝦夷地のアイヌの人々との交易が管理された。
- 問7 葛飾北斎が「富嶽三十六景」に代表される風景画を多く制作した背景として、当時の社会状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 大阪府公立入試 類似）

1. 鎖国が強化されたことで、海外の景色を知ることができない庶民のために日本の景色が描かれた。

2. 幕府が倭約令を出したため、高価な絵具を使用しない簡素な風景画のみが許可された。

3. 街道の整備や経済の発展により、庶民の間で寺社参詣や名所巡りなどの旅が流行した。

4. 参勤交代によって江戸に集まった大名たちが、故郷の景色を思い出すために注文した。
- 問8 17世紀初めに徳川家康が奨励した朱印船貿易において、当時の日本から最も多く輸出された物資と、中国や東南アジアから日本へもたらされた代表的な輸入品の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 日本から木綿を輸出し、海外から金を輸入した

2. 日本から金を輸出し、海外から木綿を輸入した

3. 日本から生糸を輸出し、海外から銀を輸入した

4. 日本から銀を輸出し、海外から生糸を輸入した
- 問9 江戸時代の農村において、名主や肝煎とも呼ばれ、村の行政や年貢のとりまとめを担った村役人の役職名として正しいものを、次のうちから選りなさい。（2016年 奈良県公立入試 類似）

1. 代官

2. 奉行

3. 地主

4. 庄屋
- 問10 江戸時代中期の18世紀後半、天明の飢饉などによる社会の混乱を立て直すために松平定信が行った「寛政の改革」の内容として、正しいものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇の政治を理想とし、公家と武士が共同で政治を行う独自の法制度を全国に広めた。

2. 武士の借金を帳消しにする棄捐令を出し、農村の復興のために都市の農民を帰らせる旧里帰農令を定めた。

3. 北条泰時にならって裁判基準を簡略化し、江戸の町人に倭約を強いる代わりに重い税を課した。

4. 株仲間を積極的に奨励することで商業を活性化させ、その運上金によって幕府の財政再建を図った。
- 問11 江戸幕府の対外関係において、九州南部の薩摩藩が担った窓口としての役割について、その仕組みを説明したものとして正しいものはどれですか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 琉球王国を支配下に置き、琉球が行っていた中国との朝貢貿易を通じて利益を得た。

2. 堺や博多の豪商と協力し、幕府の許可を得た朱印船を東南アジアへ派遣して中継貿易を行った。

3. 長崎の出島を管理下に置き、オランダ船から輸入されるキリスト教関連の情報を監視した。

4. 対馬の宗氏を指揮し、朝鮮から派遣される通信使の接待や外交儀礼をすべて代行した。
- 問12 18世紀後半に老中として実権を握った田沼意次が行った経済政策の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 武士の生活を救うために「棄捐令」を出し、商人から借りていた借金を帳消しにすることで経済の混乱を収めようとした。

2. 商業の力を利用するため、商工業者が結成した「株仲間」を積極的に公認し、その特権を認める代わりに税を徴収しようとした。

3. 幕府の財政を立て直すため、農業を重視する従来の姿勢を強め、農民に倭約を徹底させて年貢を増やすことを目指した。

4. 外国からの影響を排除するため、長崎での貿易を厳しく制限し、金や銀の流出を完全に防ぐことを最優先とした。
- 問13 江戸時代末期、薩摩藩などの有力な藩では、特産物の専売制や商人からの借金整理によって蓄えた多額の資金を、どのような事業に活用しましたか。その後の歴史の流れに関連する内容として最も適切なものを選んでください。（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. 反射炉を建設して大砲を製造するなど、軍備の近代化や産業の育成を進めた。

2. 公事方御定書に代わる独自の法律を作り、領内での裁判制度を完全に独立させた。

3. 海外との直接貿易を行うために、長崎の出島に代わる新しい港を独断で建設した。

4. 全国の街道を整備し、幕府に代わって伝馬制や宿場町の管理を主導した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 耕作面積を広げて年貢の増収を図り、幕府や藩の財政を豊かにすること	江戸時代の幕府や藩の経済基盤は、農民から徴収する「年貢」に依存していた。武士の生活や政治運営を維持するためには安定した収入が必要であり、新田開発によって耕地面積を拡大し、収穫量を増やすことで財政の強化を目指した。江戸時代中期以降には、町人の資金を利用した町人請負新田なども活発に行われるようになった。
問2	答え 2 朱印船貿易	徳川家康は、幕府が発行した渡航許可証である「朱印状」を持つ船にのみ海外渡航を認め、東南アジア各地との貿易を盛んに行わせました。これにより、貿易の利益を幕府の統制下に置くとともに、大名や豪商の経済活動を把握しました。この時期、東南アジア各地には日本人が居住する日本町も形成されました。
問3	答え 3 幕府の元役人であった陽明学者が、飢饉に苦しむ人々を救うために、幕府のおひざ元である大阪で武装蜂起したから。	天保の飢饉が広がる中、幕府の元役人（与力）であった大塩平八郎が、役人の不正や困窮する民衆を見捨てた幕府への怒りから蜂起しました。幕政を支える立場にあった者が、幕府の直轄地である重要拠点の大阪で反乱を起こしたことは、幕府の支配体制の揺らぎを象徴する出来事となり、全国の農民一揆などに大きな影響を与えました。
問4	答え 1 間宮林蔵	江戸幕府はロシアの南下に備え、北方の領土画定や警備を強化しました。間宮林蔵は1808年から1809年にかけて樺太を探索し、大陸との間に海峡（間宮海峡）があることを発見して、樺太が島であることを明らかにしました。この調査で得られた測量データは、伊能忠敬が作成した「大日本沿海輿地全図」の完成にも大きく貢献しています。
問5	答え 2 元禄文化	5代将軍徳川綱吉の時期は、新田開発の進展や貨幣経済の広がりにより、都市の町人が経済的な実力をつけた時期でした。この力を背景に、芸術や文学が花開きました。19世紀初めの江戸を中心とした化政文化と混同しやすいため、時期と場所を正確に捉える必要があります。
問6	答え 2 対馬藩を窓口として、朝鮮との外交や貿易が行われた。	江戸時代の「四つの口」は、長崎（オランダ・清）、対馬（朝鮮）、薩摩（琉球）、松前（蝦夷地）という役割分担がなされていました。薩摩藩は琉球王国を支配下に置いて交流し、松前藩は蝦夷地のアイヌの人々と交易を行い、長崎は幕府の直轄地としてオランダや清との貿易を厳格に管理していました。
問7	答え 3 街道の整備や経済の発展により、庶民の間で寺社参詣や名所巡りなどの旅が流行した。	江戸時代後期には交通網の整備や農業・商業の発展により、庶民の生活にゆとりが生まれ、伊勢参りなどの旅が盛んになりました。これに伴い、各地の名所を描いた浮世絵は、現在でいうガイドブックや絵葉書のような役割を果たして人気を集めました。北斎の風景画は、こうした人々の移動や名所への関心の高まりを背景に普及しました。
問8	答え 4 日本から銀を輸出し、海外から生糸を輸入した	江戸時代初期、石見銀山などの開発により日本の銀産出量は世界有数の規模に達していました。徳川家康はこの銀を対価として、朱印船貿易を通じて中国産の高品質な生糸（シルクの原料）を大量に輸入し、国内の需要に応えました。金や木綿は、当時の主要な貿易品目としての正解には当てはまりません。
問9	答え 4 庄屋	江戸時代の村政は「村方三役」と呼ばれる有力な百姓たちによって運営されていました。その責任者であるこの役職は、地域によって呼び名が異なり、関東では名主、東北や北陸では肝煎、近畿や西国では庄屋と呼ばれました。主な職務は、領主の命令を村人に伝えることや、村全体の年貢の納入をとりまとめることでした。
問10	答え 2 武士の借金を帳消しにする棄捐令を出し、農村の復興のために都市の農民を帰らせる旧里帰農令を定めた。	松平定信は、田沼意次の後の政治を担い、困窮した旗本・御家人を救済するために借金を帳消しにする棄捐令を出しました。また、飢饉などで荒廃した農村を立て直すため、江戸に流入した農民に資金を与えて村に帰す旧里帰農令を出すなど、保守的な緊縮財政政策をとりました。株仲間の奨励は田沼意次の政策であり、松平定信はむしろこれらを抑制する傾向にありました。
問11	答え 1 琉球王国を支配下に置き、琉球が行っていた中国との朝貢貿易を通じて利益を得た。	薩摩藩は1609年に琉球王国へ出兵してこれを支配下に置きましたが、琉球と中国（明・清）との朝貢関係は継続させました。これにより、薩摩藩は琉球を通じて中国の産物を得る「中継貿易」を行い、幕府もこれを鎖国体制における例外的な窓口の一つとして公認していました。これにより薩摩藩は経済的な力を蓄えることとなりました。
問12	答え 2 商業の力を利用するため、商工業者が結成した「株仲間」を積極的に公認し、その特権を認める代わりに税を徴収しようとした。	当時の幕府は、米の収穫量に依存する年貢収入だけでは財政が立ち行かなくなっていました。そこで田沼意次は、商工業者の組織である株仲間を奨励して「運上」や「冥加」といった税を徴収したり、長崎貿易で銅や海産物を輸出して外貨を得たりするなど、貨幣経済の発展を前提とした積極的な政策を展開しました。
問13	答え 1 反射炉を建設して大砲を製造するなど、軍備の近代化や産業の育成を進めた。	藩政改革に成功して財政を立て直した雄藩（薩摩・長州・肥前・土佐など）は、その蓄えた富を背景に、西洋の科学技術を積極的に導入しました。具体的には、反射炉を築いて大砲を鑄造したり、洋式軍隊を組織したりして、軍勢力を飛躍的に向上させました。このような経済力と軍勢力が、幕末の政局においてこれらの藩が大きな発言権を持ち、倒幕運動の中心となる原動力となりました。